



GUNBOH

群

萌

第204号 2021年1月29日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1
ルースビル402

TEL 03 (6452) 8806

FAX 03 (6452) 8807

発行責任者 寺前 敦司

編集者 化学総連事務局

gs03@kagaku-s.com



～テレワークの時代～ 作業環境確認と健康確保～

全国化学労働組合総連合 会長 寺前 敦司

2021年も幕が開けて1か月が過ぎようとしています。日本海側の広い地域では、年末からの積雪に加えて成人の日を含む三連休期間中の大雪で、停電や倒壊などの災害や、外出先での立往生や大渋滞に見舞われご苦労をされたことと存じます。冬が終わるまで、まだまだ気の抜けない日々が続きますが、無事で過ごされることを心より願う次第です。

さて年明け早々より、COVID-19の感染拡大を受けて1月7日に一都三県を対象に緊急事態宣言が発出されたのを皮切りに、13日には二府四県に拡大され、これらの地域においては「出勤者数の7割削減」を目標としたテレワーク生活が再び始まりました。昨年4月の時は、企業にとっても働く人にとっても初めてのことが多かったので、ドタバタする場面もあったように見受けられましたが、さすがに今回はその経験が生きており、混乱なくテレワークモードに切り替わったと感じます。

そのテレワークについて厚生労働省は、昨年8月から5回に亘り検討会を開催し、年末に報告書として取り纏めています。検討の過程では、9月頃に実施された「テレワークの労務管理等に関する実態調査(速報版)」が公開されており、今の日本のテレワークの導入状況やそのメリット・デメリット、労働時間管理や各種手当の在り方などについて窺い知ることができます。調査の中には「テレワーク時の作業場所の作業環境を確認しているか?」という設問もあって、75%の企業が「確認していない」と回答していたことが、胸に沁みました。厳しい質問。まだ確認していないなら、直ぐに確認しましょう。

それから「テレワーク時の健康確保のための措置を行っているか?」という設問に対しても、58%の企業が「行っていない」と答えていました。これにも、しみりました。たしかに最近、「テレワークで出歩かなくなって、太った」と、自己分析される方が増えたと思います。でも、テレワークってそんなに影響あったのかな。そこでスマートフォンが自動で記録している歩数計測結果(「総歩数」)を使って、どのくらい出歩かなかったのか調べてみました。ただ僕はマラソンが趣味なので、その影響を除くために、走った距離を1メートル/歩で換算した歩数を「運動」とし、「総歩数」-「運動」=「生活」とする

ことで、テレワークが生活に与えた影響と見なすことにして、2019年と2020年の歩数を比較しました。

その結果、COVID-19が世間の耳目を集め自粛ムードが色濃くなった2月以降、生活の前年差がマイナスで推移していました(図)。特に前回の緊急事態宣言期間に当たりテレワークが強力に推進された4月と5月は、前年差が突出してマイナスに振れており、生活での歩数は6000歩/日を割り込んでいました。6月になって宣言は解除されテレワークの回数も減少しましたが、出張の機会が前年から激減した影響が続き、2020年の生活による歩数は年平均で6403歩/日と、一日あたりで▲1203歩、率にして15%の減少でありました。

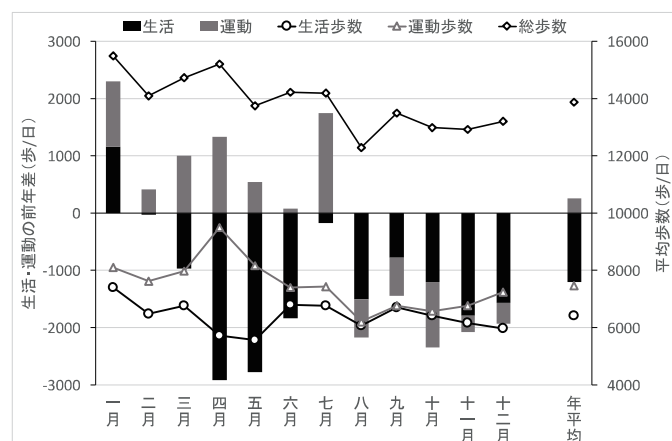


図 2019年と2020年における各種歩数の比較

こうして数字で振り返って見てみると、テレワークの影響は小さくないように思われます。特に4月だけで考えれば、前年比で3割近い減少でした。テレワークを働き方の標準に据える動きもありますが、その場合はテレワークに伴って運動量が激減することに留意しないと、前述のような自己分析をすることになりかねませんのでご注意ください。ちなみに2020年の僕の運動による歩数は平均で7480歩/日、年間走行距離にすると2738キロメートルでした。そのお陰か、残念な自己分析とは幸い無縁でしたが、一方でそんなに走ってるのに、ちっとも痩せないんですね。それを明らかにするためには、食べたものをスマホに自動で記録する仕組みが不可欠のように思います。

2021年度組織体制の紹介

化学総連は、真にプロフェッショナルな産別組織を目指すべく、2017年度より組織体制を見直し、役員全員が一丸となって産業政策活動に取り組んでいます。政策委員会の下に編成された4つの専門委員会・研究会および地方連絡会議は、現在の化学産業を取り巻く様々な政策的課題の解決に向けて、時代の先を見据えた活動を行っています。また、時代の要請に応じた様々な勉強会、施設見学、意見交換会などを積極的に行うことで化学総連の全体的なレベルアップに努めています。今号では4つの専門委員会・研究会および地方連絡会議について、2021年度の組織体制と2020年度の活動内容を簡単にご紹介いたします。

環境安全委員会

環境安全委員会では、モノづくりの前提にある「ゼロ災害」を重要課題とした安全活動に取り組むとともに、化学物質管理や様々な環境保全活動について情報共有や提言活動に取り組めます。

- 第11回安全担当者会議については日化協による災害統計とゼロ災に向けた協会の取り組みについての講演、安全アンケート結果を踏まえた三洋化成工業労働組合と宇部興産労働組合の事例発表の他、施設見学としてデンカ株式会社伊勢崎工場を訪問し、VRを活用した安全体感教育を受講することで安全意識の向上を図ることを目的に計画していましたが、新型コロナウイルスの影響を鑑みて中止しました。
- 日化協定例情報交換会や「化学物質管理セミナー」に参加する等、化学物質管理の状況や動向について知見を深めました。
- 環境保全活動として世界的な関心が非常に高まっている海洋ごみ問題について現状把握と美しい海岸を維持することを目的に神奈川県横須賀市走水にてクリーンアップ活動を行いました。

環境安全委員会 メンバー



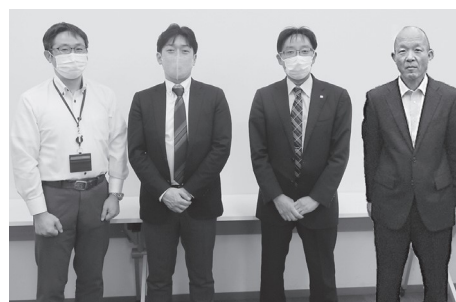
委員長：村松 厚（昭和電工ユニオン）左上
副委員長：川島 浩之（D I C労組）右下
委員：山本 寿一（デンカ労組）右上
委員：大場 豊基（丸善石油化学労組）左下

エネルギー・税制委員会

エネルギー・税制委員会では、中・長期的課題である「エネルギー政策」「税制改正」に対して継続的に取り組みます。

- エネルギー政策については電力多消費産業としての立場から、「将来に向けたエネルギー戦略」として省エネ、創エネ、再生エネといった次世代エネルギー政策に関する取り組みを行いました。エネルギー源としての水素の活用推進、次世代蓄電システムの普及、クリーンエネルギー（CO₂フリー）の拡大、化石燃料の有効活用などについても着目し、情報収集を行いました。さらに、エネルギー問題は身近な課題であるという認識を広めるために、「家庭での省エネルギー促進」の検討も進め、私たちができるエネルギー政策の提言も行いました。
- 第43回幹部研修会において、九州大学副学長で水素エネルギー国際研究センター長の佐々木 一成氏より「水素エネルギー社会実現に向けた素材産業への期待」と題し、水素は次世代エネルギーとして期待されているが、まだまだ乗り越えなければいけない課題があるということをご講演いただきました。
- 「九州大学エネルギーウィーク」、「CCUS(二酸化炭素貯槽)・水素に関する国際シンポジウム」に参加し、これからのエネルギーに関する知見を深めました。
- 日化協や石化協と情報交換等を行い、化学産業のエネルギーや税制に関する見識を深めました。

エネルギー・税制委員会 メンバー



委員長：瓜生 泰則（AGC労組）中央左
副委員長：河村 和典（宇部興産労組）中央右
委員：竹田 憲晃（日本板硝子労組）右
委員：松村 英司（JNC労組）左

新しい働き方研究会

新しい働き方研究会では、働き方改革関連法の動向を継続的に把握するとともに、新しい働き方に関する検討状況や労働ならびに労働者の生活に係る法改正等の動向を注視し、活動しています。

- 第43回幹部研修会において、慶応義塾大学教授の前野 隆司氏より「幸せな職場と働き方改革」と題し、安心や健康、心などの非地位財による幸せは長続きし、幸せになることによってパフォーマンスが大きく上昇するということを学び、今後は幸福経営が求められるとご講演をいただきました。
- 第1回働き方アンケートの深掘りを行い、満足度が低い人は環境や代役、時間が作れないことに課題を抱えており、満足度の高い人はさらなる時間の有効利用を自ら考えている。これら双方を達成することで、よりよい働き方が実現できると考えをまとめました。
- テレワークに関する働き方の調査を行い、コロナ禍の緊急対応としての一過性の取り組みとせず、体験した方々の声を集約して、よりよい制度を構築していくことが重要とまとめました。
- 「第110回労働政策フォーラム～テレワークをめぐる課題～」、「働き方・休み方改革シンポジウム」、「日本の人口に係わる問題を踏まえつつ働くを考えるセミナー」等、積極的に受講しその内容から得た知見や気づきを発信しました。

人と技術の未来研究会

人と技術の未来研究会では、化学産業を支える人と技術について、社会動向の把握ならびにこれから対応が必要な課題等について調査研究を行い活動しています。

- AIについての知見を深め、各社で実施されている研究開発の活性化につなげることを目的として、各社の次代を担う研究者(支部役員)を対象に第2回「イノベーションワークショップ」を開催しました。ワークショップでは慶応義塾大学の小林講師から「AIの産業分野への活用の可能性および期待される人材像」と題して講演いただいた後、各班に分かれて分科会を開催しました。分科会では各社における研究開発活動の活性化に関する意見交換を実施しました。
- テーマアップアンケートのフォローの一環として、これからのものづくり人材に求められる役割について見識を深めるとともに、政策集に反映し、化学総連としての見解を整理しました。こちらについてもAIの活用は欠かせないものであることを確認し、必要なデータを把握する能力、ツールを使いこなす能力などの必要性について取りまとめることができました。
- ムーンショット型研究開発制度については各目標の進捗状況の追跡を継続し、化学産業として寄与できる分野があることを確認しました。
- 新技術に関する動向を調査することを目的に「令和2年度版情報通信白書」および「令和2年度版科学技術白書」について要約を報告し、幹事会にて情報を共有化しました。今後も継続して新技術に関する情報収集、知見蓄積を実施します。
- 「R&D懇話会212回」、「Data Society Fes2020」、「関西高機能素材Week2020」、「専門職大学コンソーシアム」、「ケミカルマテリアルJapan2020」などのセミナーに積極的に参加し、最新の情報を共有化しました。

地方連絡会議

各地連の会議体に担当役員または事務局が化学総連代表として参加し、化学総連全体の現況や委員会・研究会の活動を説明することで、“より身近に感じる化学総連”に繋がるよう取り組んでいます。

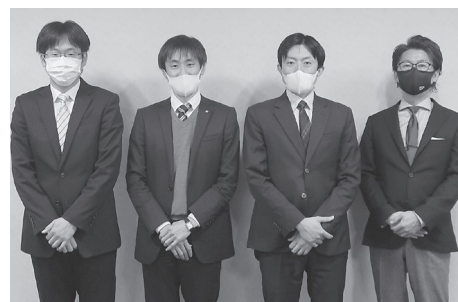
- 各地連の皆さんと幹事会メンバーの意見交換の場を順次設けることで、産別としての役割と活動の理解促進や、地連の課題等の共有や連携強化に努めています。
- 地域が抱える課題について、先進的な取り組みを展開している地連活動の報告や事例紹介、ならびに地連間の情報交換を継続することで、組織として課題の把握と地域における産業政策活動に繋げました。
- 限られた加盟単組支部での運営となる地連には、隣接する地連との合同幹事会やブロック単位での研修会・交流会等を通じて、加盟単組支部間の課題共有と交流を深められるように努めました。
- 海岸をはじめとする清掃ボランティア活動を企画していただき、加盟単組支部や関連企業労組の皆さんに参画いただくことで、化学総連をより身近に感じてもらえるように努めました。

新しい働き方研究会 メンバー



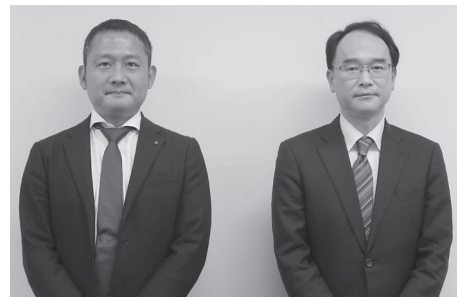
委員長：峯岸 一（信越化学労組）左上
副委員長：竹内 輝紀（日本ゼオン労組）右下
委員：松岡 秀樹（J S R労組）左下
委員：藤田 将士（ダイセル労組）右上

人と技術の未来研究会 メンバー



委員長：藤村 渉史（三洋化成工業労組）中央左
副委員長：吉田 淳二（カネカ労組）中央右
委員：木村 崇志（日信化学労組）左
委員：加藤 啓悟（三井化学労組）右

地方連絡会議 担当役員



委員長：大熊 隆史（積水化学労組）左
副委員長：村岡 健（住友ベークライト労組）右

化学総連活動報告

【第44回支部役員研修会】

日 時 2020年11月6日(金)

場 所 新横浜国際ホテル

参加人数 19名(Web併用)

基調講演として、大熊副会長より化学総連の基本姿勢や活動方針、各委員会・研究会の取り組みと海洋プラスチック清掃活動について、竹内幹事より、新しい働き方研究会の活動紹介と、第1回働き方アンケートの深掘り及びテレワークに関する働き方の調査について講演し、参加者の皆さんに化学総連に対する理解を深めていただきました。

分科会では3班に分かれて、各単組・各支部の活動内容について討議を行いました。討議後、ユニークで印象に残った点について各班より発表いただくことで、全体で情報を共有しました。



基調講演を行う大熊副会長



基調講演を行う竹内幹事



グループ発表



Webグループ発表



閉会挨拶をする村岡会長代理

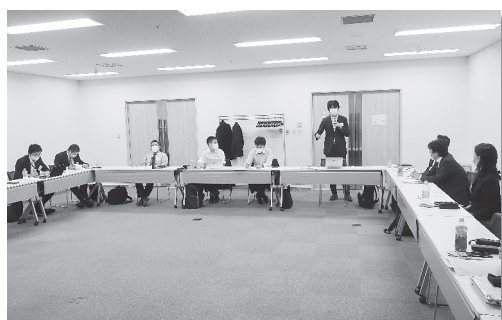


集合写真

【第96回調査担当者会議】



会場の様子



発表の様子

日 時 2020年11月10日(火)
場 所 品川インターシティー
参加人数 20名(Web併用)

竹内幹事より挨拶をいただいた後、調査担当者の業務内容の説明、オプション調査結果報告、秋季労使交渉に関する情報交換等を行いました。その他、新型コロナウイルスによって従来通りの組合活動ができない中で工夫している点についても共有を行い、質疑応答も含めて活発な議論が行われました。



Web参加者の様子



質疑の様子

【2021年度 第1回全国地連代表者会議】

日 時 2020年11月13日(金)
場 所 フクラシア東京ステーション
参加人数 29名(Web併用)

地方連絡会議の進め方、2020年度会計監査の他、補助金額の考え方や申請書類の電子化について白石事務局長から説明し周知を行いました。

新型コロナウイルスによって従来通りの組合活動ができない中で工夫している点についても共有を行い、質疑応答も含めて活発な議論が行われました。



説明をする白石事務局長



質疑の様子



会場の様子



Webからの質疑の様子

【第3回対馬海岸清掃ボランティア】

日 時 2020年11月15日(日)～16日(月)
場 所 対馬市浅茅湾、対馬市小茂田浜
参加人数 14名

2019年6月に初訪問してから3回目となる対馬海岸清掃ボランティアを実施しました。今回も一般社団法人対馬CAPPAの協力を得て状況確認と清掃活動を行いました。浅茅湾清掃では漁業で使用するブイやポリタンクその他、発泡スチロールやペットボトルなどのごみが沢山漂着していました。小茂田浜清掃では海洋プラごみの他に大量の流木も漂着している中、短時間ではありましたが清掃活動を行い、海岸の美化に貢献しました。



説明をする上野代表(左)と末永理事(右)



浅茅湾での清掃活動の様子



浅茅湾で多くのごみを回収しました



小茂田浜での清掃活動、流木が多い



清掃後の小茂田浜、きれいになりました



小茂田浜で大量のごみを回収しました

化学総連活動報告

【第45回支部役員研修会】

日 時 2020年11月20日(金)
場 所 ホテルマイステイズ新大阪
参加人数 15名(Web併用)

基調講演として、村岡会長代理より化学総連の基本姿勢や活動方針、各委員会・研究会の取り組みと海洋プラごみ清掃活動について、藤村副会長より人と技術の未来研究会の

活動紹介と、ものづくり人材及び製造業を取り巻く変化について講演し、参加者の皆さんに化学総連に対する理解を深めていただきました。

分科会では3班に分かれて、各単組・各支部の活動内容について討議を行いました。討議後、ユニークで印象に残った点について各班より発表いただくことで、全体で情報を共有しました。



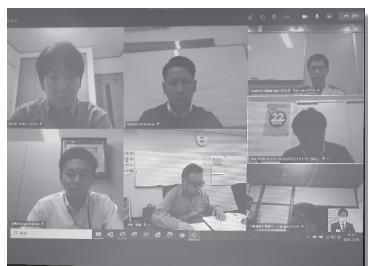
基調講演する村岡会長代理



基調講演する藤村副会長



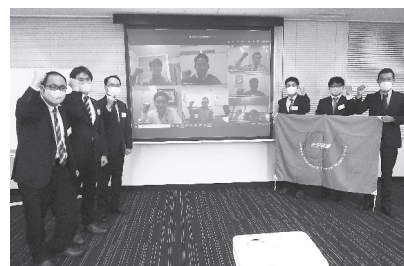
会場の様子



Web参加者の様子



Web発表の様子



集合写真

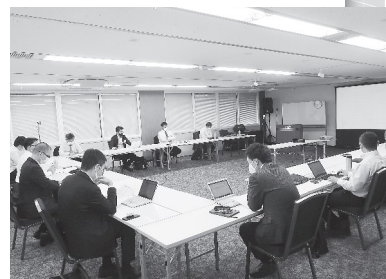
【2021年度 第1回書記長・事務局長会議】

日 時 2020年11月24日(火)
場 所 TKP品川カンファレンスセンター
参加人数 21名(Web併用)

河村幹事より挨拶をいただいた後、本部・支部の体制及び組合の組織運営について情報交換等を行いました。本部・支部の体制については森事務局次長より各単組の専従体制について報告がありました。組織運営については書記長・事務局長より報告があり、各単組での課題について共有し質疑応答も含めて活発な議論が行われました。



挨拶をする河村幹事



会場の様子



Web発表の様子



現地発表の様子